



古里への愛情を歌で訴える石木ダム計画の反対地権者ら
＝長与町民文化ホール

古里への愛歌に込め

石木ダム
反対地権者 演奏交流会で熱唱

長 与

県と佐世保市が東彼川棚町に計画する石木ダム事業の反対地権者が5日、西彼長与町民文化ホールで開かれた「2010長崎のうたごえ演奏交流会」に出演し、ダム反対の意志と古里への愛情を歌で訴えた。

交流会は有志らでつくる「長崎のうたごえ協議会」が毎年開催。今回は10月に本県で初めて開かれる全国大会「日本のうたごえ祭典 in 長崎」の予選会も兼ねており、地権者は「ダム反対の思いを広く訴えたい」と参加を決意。6月から練習を重ねてきた。

歌ったのは、水没予定地とされている川原地区の自然の美しさを歌詞にちりばめた「川原のうた」。そろいのTシャツでステージに立った計27人は緊張した表

情ながら息を合わせて熱唱。曲の途中には地権者の松本好央さん(35)が「生まれ育った土地に住み続けただけ。自然を子どもたちに残したいだけ」と約300人の聴衆に語り掛けた。

審査の結果、同祭典の「オリジナルコンサート」の出場枠を獲得。合唱団代表の岩下すみ子さん(61)は「人前で歌うことに慣れていないメンバーばかりだったが、川原のことを知ってほしい一心で出演した。会場から『頑張れ』という声援も受け、涙が出そうになるくらいうれしかった」と話した。

(中山雄一)